

1. 評価結果概要表

作成日 21年6月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1890200023
法人名	有限会社 みつばちホーム
事業所名	グループホーム 心満
所在地	福井県敦賀市野坂20号1番地 (電話) 0770-21-5563

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成21年3月23日	評価確定日	平成21年6月2日

【情報提供票より】 (21年3月9日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)20年4月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	12人 常勤7人、非常勤5人、常勤換算8.5人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (100,000 円) 有りの場合償却の有無 (有) / 無			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1300 円	

(4)利用者の概要

利用者数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2	要介護2	5		
要介護3	2	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.0 歳	最低	58 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	木村病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本事業所は、敦賀市南西の山間部に位置し、周囲は田畑に囲まれた静かな地域である。事業所は新築の木造平屋建てで、清潔感が漂うだけでなく、木の暖かみも感じられる。託老所からグループホームに移行したものであり、住み慣れた地域で利用者の暮らしに寄り添うことを重視している。事業所名は利用者の心が満たされる暮らしを支援する場所として「心満(こころみ)」とつけられており、入居者の「心満」を目指した運営が行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての外部評価の受審である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は自己評価の意義を理解し、今後のサービスの質の向上を目指す機会と捉えている。また、自己評価票の作成は全職員が協力して行い、自分たちの日頃の業務の振り返りができたと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議は、行政職員・自治会長・民生委員等の地域住民代表者(2~3名)・地域包括支援センター職員・利用者家族代表・母体組織の本部職員・管理者等が参加し、約2か月に1回開催している。会議で出た意見に関しては、できる限り事業所の運営に反映するよう取り組んでいる。また、会議の議事録も詳細に記載されており、運営会議に出席した職員だけでなく全職員が閲覧できるように整備されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 事業所から毎月家族に手紙等を送付し、利用者の様子を報告し連携を図っている。また、事業所内に意見箱を設置したり、苦情等受付機関の案内を掲示するとともに、家族が来所したときには直接の意見や要望を聞き、入居者の支援に反映するよう取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議等で地域に関する情報収集を行い、地域のふれあいサロンや祭り等の行事に参加している。また、職員が地域の清掃活動にも参加し、地域住民と積極的に交流を図っている。

## 2. 評価結果（詳細）

は、重点項目。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>理念に基づく運営</b>			
		<b>1 理念の共有</b>			
	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの「こころが満たされる暮らしを支え、ともに生活を楽しむ」という理念のもとに、事業所が運営されている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所名に事業所の理念が表現されており、職員は理念を意識し、理念に添った入居者の支援を心がけている様子を見ることができた。		
		<b>2 地域との支えあい</b>			
	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者は、ふれあいサロンや祭り等の地域の行事等に参加している。また、職員が地域の清掃活動に参加し、地域住民と積極的に交流を行っている。		今後、広報誌の作成・配付を通じて、より積極的な地域との関わりを期待したい。
		<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票の作成にあたっては、管理者を中心に全職員で取り組み、日ごろの業務を振り返る機会となった。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催している。会議には行政職員・地域の代表者・包括支援センター職員・入居者家族代表者・母体組織の本部職員・管理者等が参加している。会議は事業所からの報告のほか、出席者から意見や要望を聞き、できる限り事業所の運営に反映するように取り組んでいる。		
	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は行政担当者等との連絡協議会に参加したり、直接市役所へ出向き相談を行うなど、緊密に連携を図っている。		
		<b>4 理念を実践するための体制</b>			
	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所から毎月家族に手紙を送付し入居者の様子を報告しており、家族が来所した際には直接意見や要望を聞いている。また、入居者の状況が変化したときは速やかに電話で報告している。		
	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置したり、苦情等受付案内を掲示している。また、職員は、家族からの意見や要望を運営に反映させるよう取り組んでいる。		今後、さらに家族等の意見が取り入れられるよう家族会の発足を事業所として働きかけていくことを期待したい。
	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は入居者への影響に配慮し、法人内の職員異動を原則として行わないようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>5 人材の育成と支援</b>			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の経験等に合わせて、法人内外のさまざまな研修に参加を促している。また、職員の勤務体制の中で、できる限り勤務扱いができるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は事業者連絡協議会に参加している。また、職員も県主催の職員交流事業に参加して、他の事業所と積極的に交流を行っている。		
		<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> <b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者を中心に入居希望者の家庭訪問を行い、家族との関係づくりに努めている。また、入居の際に日帰りの利用から始めるなど、馴染みの関係づくりに心がけている。		
		<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は、洗濯物を干したり食事の用意などを一緒に行うとともに、職員は日常的な作法等、多くのことを入居者から教えてもらい、ともに暮らしを支えあう関係づくりに努めている。		
		<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> <b>1 一人ひとりの把握</b>			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ごとに担当の職員を決め、担当職員が中心となって支援し、他の職員へ周知している。職員は、日常的な関わりの中や家族からの情報をもとに本人の思いを把握し、意向に添えるよう努めている。		
		<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当の職員がアセスメントを行い、それをもとにカンファレンスしながら介護計画を作成している。また、本人や家族の意向に関しては、契約時にセンター方式のアセスメントシートの記入をお願いしたり、家族の面会時に意見を聞いたりして、介護計画に反映するようにしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則的には6か月をめぐりに介護計画の見直しを行っている。利用者の状態の変化に応じて、見直しが必要な場合は随時介護計画の追加や変更を行っている。		
		<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診の同行や美容室への付き添い、急な宿泊等といった要望に対しても小規模多機能の良さを活かし、できる限り対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望があれば、かかりつけの病院での受診を継続することができる。また、事業所には内科医の往診が1週間から2週間に一度あり、その都度入居者の健康に関する相談をしている。精神科の受診には職員が同行し、医師からの指示を受け連携を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に本人や家族の意向を確認し、できる限り希望に沿う方針であるが、利用者全体の状態など事業所内の状況も踏まえ、家族と話し合いをした上で支援する方針である。		
		<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b>			
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員から利用者を敬う話しかけがなされている。また、入居者の記録等に関しては、他の人の目に触れない場所に保管されている。		入居者の居室に鍵の設置を検討しているとのことであり、よりプライバシーが保たれることから実施を望みたい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の日課等は設けず、希望する過ごし方を尊重している。また、起床時間や食事の時間などもできるだけ入居者の希望を優先している。		
		<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は買い物や食事の準備・調理・後始末等、入居者の能力に合わせて参加を促し、ともに食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は毎日の午後であるが、一人ひとりの入浴する曜日や回数等は事業所では決めず、入居者の希望に沿って対応している。		
		<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の意向を把握しながら、家事や外出・散歩・農作業等、できるだけ入居者が望んでいる生活ができるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に合わせて、ドライブや買い物・散歩等といった外出を支援している。		
		<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠を行わず、人の出入りはセンサーを設置し把握している。また、外出の希望があれば、職員は利用者と一緒に同行している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルは、火災と地震に対応したものを作成しており、消防署立会いの下、防災訓練を実施している。		防災訓練へ地域住民の参加協力を呼びかけ、災害時における地域住民の協体制づくりも期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立を使用している。水分も状況に応じ、入居者に声をかけ摂取するよう支援している。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースは季節感のあるものや入居者の写真等が飾られ、暖かみの感じられる雰囲気となっている。また、新築されて2年目であり、清潔感がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所として制限しておらず、使い慣れた物を持ち込むことができるようにしている。		

## 自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b> <b>1 理念の共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域やホームでの「暮らし」について意識しなければならないことが明確に理念に盛り込まれている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	研修をする際には、必ず理念を実現するために何が必要なのかを確認しながら行っている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっている地区役員、家族の方には説明をしたが地区住民すべてにとということはない		
<b>2 地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際には挨拶を交し、近所の方から野菜などの差し入れをもらうなど交流している		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の祭りやサロンなどに参加し、交流の場を持っている		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議では地域の役員の方と話し合いを持っている		
<b>3 理念を实践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に管理者だけでなく、職員に参加してもらうことで日々のケアを振り返る機会としてもらっている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での行事などだけでなく、事故や苦情対応などについても報告している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に管理者となるが市担当者らとの連絡会への参加や役所へ出向き相談などを行っている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が市の権利擁護プロジェクト委員になっており情報を持っている。また、成年後見ばあとなあ名簿にもと登録されている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する冊子、報告書などはいつでも閲覧できるように陳列されている。利用者の対応で困った際には管理者や職員間で話し合い自己判断されないように注意している		
<b>4 理念を实践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を説明し書面でも交付している。契約解約事項についても特に注意して説明している		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の対応には主に担当職員があたり、意見を言いやすいように配慮している。管理者も様子をみて個別に声をかけるようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりなどを担当者が写真を添えて毎月報告している		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受け入れ態勢は整備している。外部の苦情受付機関も掲示している。利用者の家族には管理者の携帯電話の番号も知らされておりいつでも連絡が取れるようになっていく		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	伺書を常備し企画や提案を随時受け付けている。定期的に職員会議も開き意見を出してもらう。また、個別に声をかけて意見を求めている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況をみて、管理者が指示を出し随時調整を行っている		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護職員の負担軽減を念頭に置き勤務を管理している。勤務時間変更などの意見についても柔軟に相談に応じている。現時点では担当の変更はない		



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTに関してはある程度は担当者を決めて行えている。Off J Tについては職員の経験に合わせて研修参加を勧め、できる限り勤務扱いでの研修参加に配慮している		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県連絡会の職員交流事業へ参加し、他施設への実習も研修に盛り込んでいる		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員配置に余裕を持たせ、心身ともに疲労をためないように配慮している。また、職員一人一人の状態を把握し必要に応じて声をかけるようにしている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	企画などもどんどんと採用し現場の運営はできる限り職員に任せて管理者は相談役として機能するようにしている。待遇面でも資格を取得した際には昇給している		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前調査で本人に面会した際に希望の聴取は行うが十分とは言えない		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所対象者の家族とは入所の時期の相談も合わせて連絡を密に行っている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	結果として入所につながらなくても相談に来られた方には真摯に対応している。状態に合った施設の紹介やケアマネジャーの紹介なども行っている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時には家族からこれまでの生活状況を情報提供してもらい、要望なども聴取している。1ヶ月程度はじっくりと様子を観察し生活に馴染んだ頃にカンファレンスを開きケアプランの立案を行う		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が一緒に物を製作したり、食事を作ったり、時には利用者から味付けを習ったり、洗濯物の干し方を習ったりと一緒に生活を送っている		



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員が受診と一緒に同行するなど、一緒に対応を考えたり、意向を伝える支援をしている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、担当者から家族へ手紙を送り、様子に加えて本人からの伝言なども伝えている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や年賀状を一緒に書いたり、個別外出で自宅へ行ったり、入居前に通っていた美容室を引き続き利用するなどの支援をしている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	テーブルの席なども配慮し決めている。ドライブに行くメンバーなどにも配慮し仲の良い人と過ごせるように配慮している		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居の際には、入居する前のケアマネージャへの連絡を行った。その後のことについても相談に乗れることも伝えている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを使用して要望を抽出し支援に反映させている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にもアセスメントに協力してもらい情報を得ている。また、ケアマネージャへの聞き取りや病院からの情報提供などを利用している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のアセスメントシートを利用しすぐに手を出してすることなく、どこまでできるかを把握し、ケアプランにも反映させている		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族にもセンター方式のアセスメントシートを渡し情報や要望を収集している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間の途中であっても、変化があれば管理者と職員間で話し合い、管理者から家族へ説明するなどの対応をとっている。プランには追加の形でプラン表に記載する		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録の他にも交換日記や連絡帳を使い情報共有や検討の機会を作っている		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診や個別の外出など家族と相談しながら柔軟に対応している		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区のふれあいサロンへの参加には民生委員から送迎の協力をしてくれるとの声をもらっている。近所の保育園とは交流もある		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点では特にしていない		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらっているがとくに役割をまかせていることはない		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては本人・家族と協議し了解が得られれば囁託契約を結んでいる病院を紹介している。希望のある方については入所前からのかかりつけ医の受診支援を行っている		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけになっている利用者は当然ながら、他の利用者も定期的に画像診断を受け状態を把握している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常時、オンコール体制をとり相談し指示を仰いでいる		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族から医師に状況を確認してもらうように促し情報を常に得ている。協力病院の場合には直接に医師と連携している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	職員間では、カンファレンス時に話し合い方針を共有している。家族には契約時に意見を確認している		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	個々のケースにおいてかかりつけ医と話し合いを行っている。終末期のことについては検討の段階である		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入居前に担当者が面会に行き、少しでも関係を作ることや本人、家族の準備ができるまで急かすことなく対応している。(日帰り利用から始めるなど)		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	声かけについては十分に注意している。記録は外部者の目に触れないように常に片付けるように指導している		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	行事の参加、レクへの参加、入浴の希望や食事の希望など常に選択ができるように配慮している		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	ホールで活動する日や部屋でゆっくりする日など声かけをして選択してもらっている。起床時間も利用者の希望・状態を勘案し対応している。食事の時間・入浴の時間もその都度確認している		
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	着替えをする時には利用者に服を選んでもらうように支援している。散髪については入居前に行っていた店に行く人やホームでする人、近くの店に行く人など利用者に合わせて支援している		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	利用者と一緒に買物へ行ったり、準備、調理、片付けなど利用者の能力に合わせてかかわってもらっている		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	お茶の時にはメニュー表を作って選んでもらったり、買物に行った際には当日のおやつなど好きな物を選んでもらっている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツは基本的に使用しないことを職員全員が理解している。排泄表を利用し時間を見てと声かけ、誘導を行っている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間は決まっているが毎日、入浴ができる体制を整えている。入浴日は利用者の希望、体調で臨機応変に行っている。希望のない利用者は入浴表を確認して定期的に入れるように支援している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	定時の排泄時間などを作らず、様子を見ながら目が覚めた時に排泄介助をするなどペースを乱さないように配慮している		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外へ気分転換に行きたい利用者、家事仕事が好きな利用者、のんびりが好きな利用者など利用者に合わせて対応している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態を勘案しトラブルがないよう対応している。ホールでお金を管理し希望時に渡したり、個別の買い物をするなどしている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物に同行してもらったり、散歩やドライブ、展示場見学など外へ出る機会を作っている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事には利用者の希望も取り入れ、みんなが楽しめるように支援している		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話使用の支援をしている。今年の正月には家族への年賀状を出している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者へのあいさつの徹底や明るいホーム作りに力を入れている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修が実施されていないため全職員が把握はしていないが、個別の対応については管理者が指示を出している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は勝手口を除いて施錠はされていない。人の出入りについては玄関にセンサーを設置しチャイムで把握している		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室には許可を得てからはいるように指導している。夜間は、利用者の状態に応じて安否確認を行っている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品については管理しているが、その他、特に制限していない		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホールから職員がいなくならないように声を掛け合って対応するよう徹底している。食事はテーブルに職員が必ず入り一緒に食事をとるなどしている		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の研修には順番に出てもらっている。事故発生時には自己判断することなく必ず管理者若しくは代表者に連絡し指示を仰ぐようにしている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を予定しているがまだ行われていない		年度内に避難・防災訓練を実施する。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会に来られた際には、近況を報告し、状態に大きな問題がある場合には管理者が直接連絡し話し合っている		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎日行い、変化があれば管理者に連絡し、管理者と嘱託医が連携をとっている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の案内書は保管しいつでも確認できるようにしている。		



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、乳製品を摂るようにしている。少しでも体を動かしてもらうようにリハビリ体操の時間を設けたり、個別に散歩するなどしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者に応じて、声かけ、誘導、介助を行っている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族からの聞き取りや本人から食事の嗜好を把握し、味付けにも工夫するするなど食事をとってもらえるように配慮している。水分についても状態を勘案しお茶やスポーツドリンクなど部屋にも用意するなどして水分量を確保するようにしている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	管理者が嘱託医と相談しマニュアルを作成し指示を出し対応する		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	作り置きがないように作ったものはその日に処分するようにしている。まな板や布巾は消毒の日を決め徹底して管理している		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口の坂の勾配が強く、利用者だけでの出入りは危険がある。スロープはある 玄関には花や手作りの小物を飾り、清潔感のある空間づくりを心がけている		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの上には花や季節の小物を飾り季節を肌で感じられるように配慮している		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席は自由としているがだいたい座る場所は決まっている。畳コーナーもあり自由に使用している		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは特に制限していない。希望の物を持ち込んでもらっている		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前、午後と必ず換気の時間を設けている。 温度調整には空調設備を使って20度前後の気温を保っている。ホーム内の温度・湿度を毎日記録している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はパラフリーになっており、車椅子使用になっても生活ができるように洗面所の高さやトイレの広さなどに配慮されている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状態に合わせて、声かけ、誘導、一部介助など手をかける度合いを話し合い、ケアプランにも反映させている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑まで行けない利用者のために、リビングから見えるデッキにはプランターを置き、季節が感じられるように配慮している		
項目番号	項目	<b>取り組みの成果</b> (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		



95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者が穏やかに生活できるように、職員がばたばたと動きまわらず同じ時間を共有できるように心がけている。
- ・夜間の入浴はできていないが、毎日、希望に合わせてゆったりと入浴ができる体制を整えている。
- ・夜勤職員の拘束時間を短縮するなど、職員の心身の負担を軽減し心のゆとりを持ってケアにあたれるように配慮している。
- ・地域の祭りやサロンなどへ参加できるように勤務を調整するなどして支援している。